

平成 30 年度 UDCBK セミナーNo.1  
「草津、いいもの、みんなではなそ！」実績報告

1. 開催日時:平成 30 年 5 月 23 日(水) 13 時から 14 時 30 分
2. テーマ:UDCBK×草津商工会議所×草津おみやげ隊 草津、いいもの、みんなではなそ！  
～草津のいいものを発掘し、草津ブランドを育てましょう！～
3. 話題提供者:  
第 1 部 戌亥史一氏(草津商工会議所 中小企業相談所 業務指導課)  
第 2 部 大塚佐緒里氏(草津おみやげ隊代表)
4. 開催場所:UDCBK
5. スケジュール  
13 時～13 時 40 分  
第1部 話題提供  
① 「ふるさと企業いいもの発掘市」の挑戦！  
草津商工会議所 中小企業相談所 業務指導課 戌亥史一氏  
② 「いいはなしから、いいおみやげをつくりたい！」  
草津おみやげ隊代表 大塚佐緒里氏  
13 時 40 分～14 時 30 分  
第2部 ワークショップ “いいもの”にある“いいはなし”って、どんなはなし
6. 参加人数:30 名
7. 報告  
(1) 話題① 「ふるさと企業いいもの発掘市」の挑戦！  
草津商工会議所 中小企業相談所 業務指導課 戌亥史一氏  
草津商工会議所の戌亥さんは地元の中小企業の経営に関する様々なサポートをしています。地元の中小企業の経営をサポートする中で、草津市内の様々な中小企業を回ると全国的にも通用する「いいもの」を作っていることがわかったそうです。  
そこで、草津のふるさと企業の「いいもの」を知ってもらおうと平成 28 年度に初めて東京ギフトショーに出展されました。平成 29 年度も東京ギフトショーに出展したところ、東京ギフトショーで出会ったバイヤーに「草津には「いいもの」があるけど、地元で知られ、使われ、愛さ

れているのか？」と指摘され、答えられなかったそうです。その時、全国的な知名度を高めるためには、まずは地元の方々に知ってもらい、使ってもらい、愛してもらうことが重要であることに気づかれました。



写真1 御講演する成亥さん

そこで、昨年度「ふるさと企業いいもの発掘市」を開催し、地元の人に草津市内の企業が生産する「いいもの」を知ってもらうことにしたそうです。参加した企業の方も来店された市民の方にも好評で、生産者と消費者が交流する機会も得られたことから、今年度も引き続き、「ふるさと企業いいもの発掘市」の開催を予定されているとのことでした。

これからの課題としては、「いいもの」を作ることをサポートするだけでなく、消費者がその製品を使って良かったこと、変わったことなどの「いいはなし」を作り出すきっかけづくりも大切であることに気づかれたそうです。

## (2) 話題② 「いいはなしから、いいおみやげをつくりたい！」

草津おみやげ隊代表 大塚佐緒里氏

草津おみやげ隊代表の大塚さんは観光地として有名な道後温泉のある愛媛県の御出身です。道後温泉にはおみやげがたくさんありますが、道後温泉に帰省する際、草津のおみやげをさがしたところ、草津には日持ちのするおみやげがなかったそうです。また地元の様々なイベントに参加すると草津には「いいもの」がたくさんあることに気づかれました。そこで、草津の「いいもの」を使ったおみやげのレシピを募集するコンテストを平成 28 年度に開催されました。

レシピのコンテストを開催したところ、参加者から「レシピを考えた人の話を聞きたい。」など作り手さんと繋がりたいと思っていること、アイデアの中には既に商品化されたものがあるとの指摘を受けるなどまだまだ知られていない製品があることに気づかれました。

そこで、平成 29 年度には、コンテストだけではなく、みんなで草津市内の「いいところ」を訪ねたり、「いいもの」を作っている生産者の話を聞いたり、「いいもの」作りを体験するなどのイベントを企画しました。



写真2 御講演する大塚さん

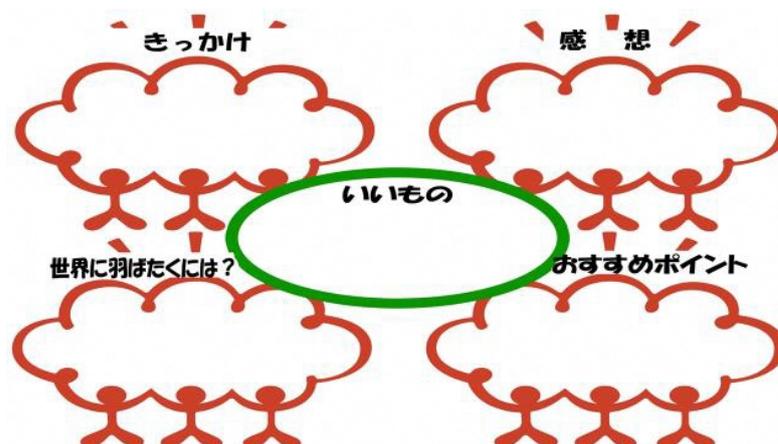
このように大塚さんは草津の「いいもの」から「いいはなし」を、「いいはなし」から「いいもの」を作り出す取り組みをされています。製品の機能や効能、価格だけではなく、使いながら、製品の改善に繋がっていく提案を生産者にしていく、いわば、消費者(コンシューマー)でもあり、生産者(プロデューサー)であるような関係(プロシューマー)を結んでいくことが、使われ、愛される製品になる条件であることを話されました。

### (3) ワークショップ “いいもの”にある“いいはなし”って、どんなはなし

ワークショップでは、戌亥さん、大塚さんのお話を踏まえ、草津の「いいもの」にまつわるいい話を参加のみなさんそれぞれに A3 用紙のシートに記入いただき、グループで共有しました。

A3 用紙のシートの中央に「いいもの」を記入して、左上から時計まわりに、「きっかけ」、「感想」、「おすすめポイント」、「世界に羽ばたくには？」の4つの記入欄があります。「きっかけ」には、そのいいものを知ったきっかけや使ったきっかけを、次の「感想」には、いいものを

使った時に感じたこと、使ったあとの御自身の変化などを、三番目の「おすすめポイント」には、「愛を語ろう！」として、いいものを他の人に薦めるときを想定して、いいものへの愛を、最後は「世界に羽ばたくには」と題して、草津から全国に、そして世界に通用する製品になるためのアドバイスを記入していただきました。



参加者のみなさん各自でこのシートを作成していただき、グループで共有していただきました。最後はグループの代表の方に話し合った内容を参加者全員で共有しました。

中央の「いいもの」の欄に製品だけではなく、帰帆島や本陣、琵琶湖博物館など「いいところ」や「ママたちが元気」や「元気な子どもたち」など「いいこと」を記入された方もいらっしゃいました。また参加された方の中に「いいもの発掘市」に出展された生産者の方もいらっしゃり、今まで知らなかった製品の誕生秘話などをお聞きすることができました。



写真3 ワークショップの様子①



写真4 ワークショップの様子②



写真5 ワークショップの様子③

## 8. まとめ

今回のセミナーは草津商工会議所と草津おみやげ隊とUDCBKの三者協働で開催しました。そのため、当日の参加者は消費者である市民の方だけでなく、「ふるさと企業いいもの発掘市」に出展された地元の生産者の方、草津商工会議所の関係者のほか、行政職員や企業の方にも参加いただくなど普段にもまして多様な方々に参加いただきました。

ワークショップでは、生産者の方から後継者がいない、市内に売り場がないなど構造的な問題が指摘されました。多様な参加者の中に草津商工会議所を始め、この問題解決のために必要な知識や技術や経験を持つ企業の方々や行政職員なども参加いただきました。いわば、全ての関係者が一堂に介し、自由で気軽な雰囲気ワークショップの場で、それぞれが持つ製品に対する思いだけでなく、普段の仲間たちの間では話したこともないような話をしたり、思いがけず様々な課題を知ったり、またそれぞれが支援すべき問題等が明らかになり、共有でき

ました。UDCBK が目指す「地域を知り、お互いを知る」が実践できたと考えています。

今後は、このワークショップをきっかけにそれぞれが問題解決に向けた新たな活動を始め、その結果をもとにまた UDCBK の場で、今回のように対話できるよう、協力していきたいと考えています。

また生産者と消費者である市民が、このセミナーをきっかけにつながりましたので、草津の「いいもの」を使い、愛し、より良いものにするために生産者に提言するなど生産者と市民がつながり、「いいもの」から「いいはなし」が、「いいはなし」から「いいもの」が生まれるよう、知識などが必要になった場合、UDCBK として学習する機会を提供していく予定です。

UDCBK では、今後もこのような産学公民連携のプラットフォームとして、普段出会わない人々が出会い、また普段は聞く機会がない話題などを提供し、参加者それぞれがつながり、新たな結合から、未来のまちづくりに繋がる多様な活動が生み出されるようなテーマを取り上げていきたいと考えています。

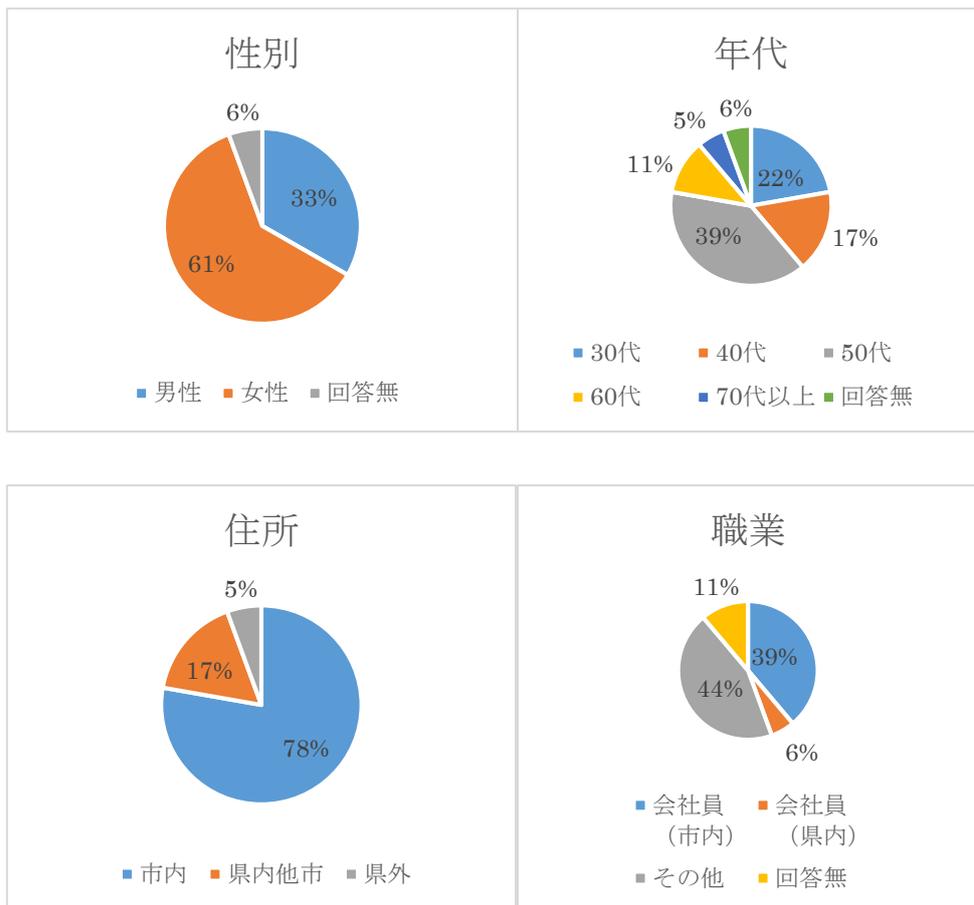


写真6 参加者のみなさん

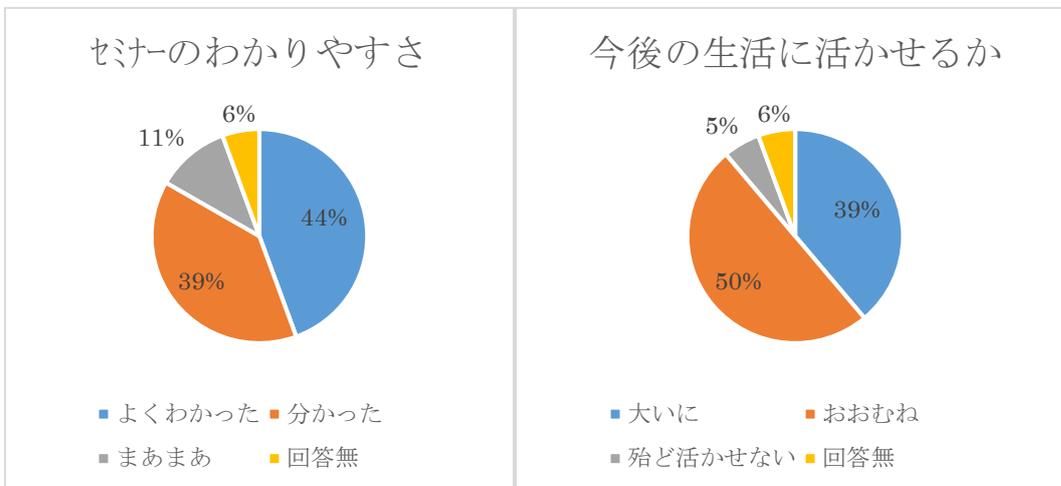
## 9. アンケート結果

参加者 30 名のうち、アンケートに回答していただいた方は 18 名でした。アンケート回答率は 60%です。

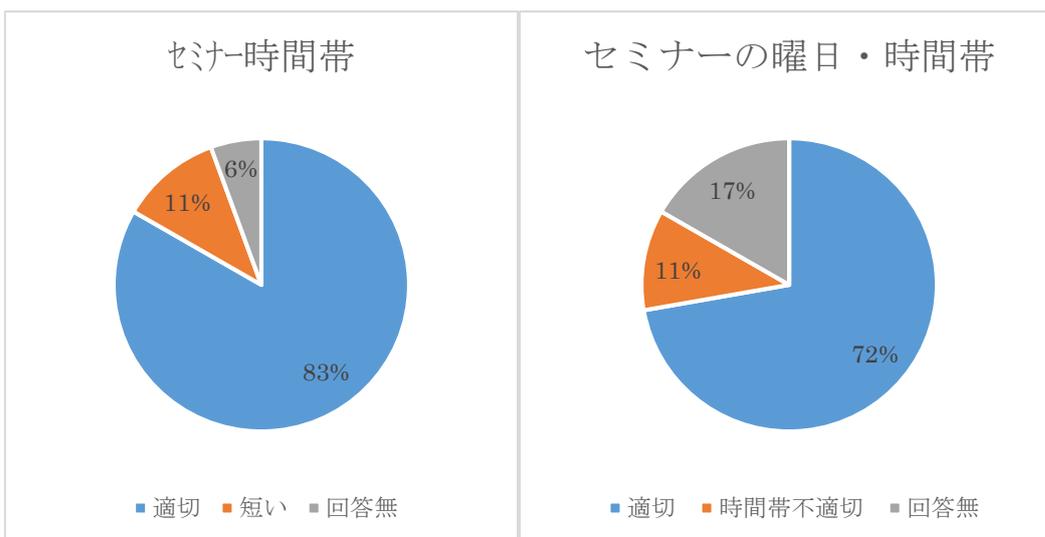
### (1) 参加者属性



(2) セミナーの内容について



(3) セミナーの時間帯・時間について



(4) 主な自由回答

- 県外に帰省するため、毎回何をお土産にするか？と悩むことがあるため、関心を持ちました。いつも京都や市外のものを選ぶことがほとんどなので、草津のステキなお土産ができれば嬉しいし、自慢したいです。
- 草津の魅力発信に関わり、地域の金融機関として出来ることを最大限に取り組んでいきたいと思いました。
- 皆さんがとても積極的で感心しました。今後の草津の発展に期待しています。
- 目指す方向が共有されたように思います。発展のイベントも期待します。
- 世界へのアピールが少なかった様に思う。